



2021年3月3日

東日本旅客鉄道株式会社

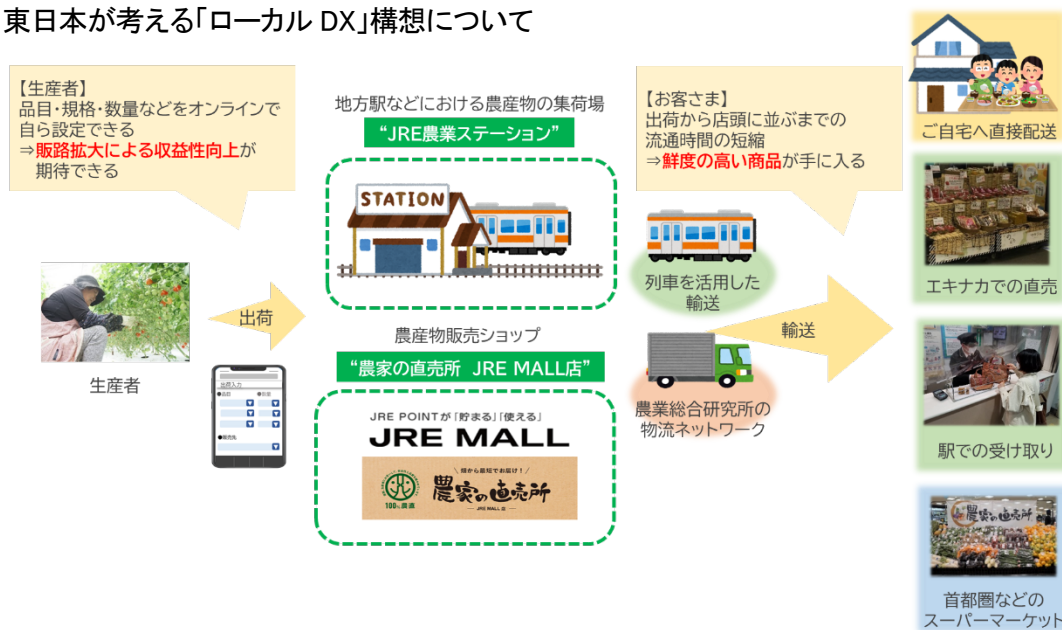
「JRE 農業ステーション」を整備し、農業の活性化を図ります！

- 東日本旅客鉄道株式会社(以下、「JR 東日本」)は、グループ経営ビジョン「変革 2027」で掲げる「地方を豊かに」する取り組みの一環として、2020年10月14日に発表した株式会社農業総合研究所(以下、「農業総合研究所」)との提携を通じた農業の活性化により、地方創生に貢献します。
- 農業総合研究所が有する農産物流通のプラットフォームと、JR 東日本が有する鉄道ネットワークとを組み合わせ、生産者の収益性の向上と、お客さまへの鮮度の高い農産物の提供を可能にします。
- 第一弾として千葉・茨城・長野エリアの駅周辺施設で集荷場「JRE 農業ステーション」を整備し、生産者の出荷の利便性を高めるとともに、駅の地域コミュニティの拠点化を図ります。さらに列車による農産物の輸送を通じ、流通時間の短縮を図る実証実験に取り組みます。
- JRE MALL 内に、農産物販売ショップ「農家の直売所 JRE MALL 店」を本日オープンし、収穫から最短で翌日に新鮮な農産物をお届けします。

日本の農業が抱える課題の一つに、生産者の収益性があります。JR 東日本はこの課題を解決すべく、集荷場「JRE 農業ステーション」の整備や、IT を活用した農産物流通の活性化に取り組みます。効率的な出荷や、品目および販路の拡大を通じて、生産者の負担の軽減と収益性の向上を図ります。また流通時間を短縮することで、お客さまは鮮度の高い商品の購入が可能となります。

農業総合研究所の IT を活用した流通プラットフォームと、「JRE 農業ステーション」、「JRE MALL」などをかけあわせ、「ローカル DX(デジタルトランスフォーメーション)」として推進します。

●JR 東日本が考える「ローカル DX」構想について



1. 駅および駅周辺施設などを活用した集荷場「JRE 農業ステーション」の整備

内房線江見駅、水郡線上菅谷駅、中央線辰野駅の3カ所で集荷場「JRE 農業ステーション」を整備し、今後順次拡大します。「JRE 農業ステーション」には農業総合研究所が有する生産者とのネットワークを活かし、農産物を集荷します。「JRE 農業ステーション」ではスタッフの雇用を通じて、各地域の雇用の拡大に貢献し、地域コミュニティの拠点となる施設を目指します。

2. 列車によって輸送した農産物のエキナカでの販売

「JRE 農業ステーション」などで集荷した農産物を列車で輸送し、都市圏のエキナカで販売する実証実験を行います。生産地の近隣でしか流通しない農産物を輸送して販売する、朝採れ野菜を夕方に販売するなど、鮮度が高く魅力ある農産物をお客さまに提供します。



3. 「農家の直売所 JRE MALL 店」の出店

JR 東日本グループが運営する EC サイト「JRE MALL」内に、農産物販売ショップ「農家の直売所 JRE MALL 店」を本日オープンし、新鮮な農産物の販売を開始しました。サイト内のショップでは注文された商品を、収穫から最短で翌日にお客さまにお届けします。また規格外野菜の販売や販路拡大を通じて、フードロスの削減や生産者の収益性向上を図ります。将来的には駅での受け取りサービスなどを通じ、お客さまの利便性をさらに高めます。

●購入フローのイメージ

